

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100237		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム千葉寒川の家 (1階)		
所在地	千葉県千葉市中央区寒川町1丁目249-2		
自己評価作成日	平成25年8月22日	評価結果市町村受理日	平成25年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成25年9月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔をモットーに真心をこめた介護を心がけてます。
スピードや効率の良い介護を展開するのではなく利用者様の気持ちを常に考え、傍らに寄り添い笑顔であふれる施設になるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念、運営方針を週1回実施している朝礼時において読み上げ、法人が目指している事について職員間で意思統一が図れるように取り組んでいる。開設から1年が経過し、ホームとして、家族との連携強化、職員の育成にこの1年力を入れて取り組み、各ユニットにリーダーを配置できるようになる等、成果も徐々に表れている。利用者もグループホームの生活に慣れ、穏やかに生活を送っていると共に機能回復も進んでいる方も表れている。今後に向けては地域との触れあいを増やしていく事を検討しており、地域密着型サービスとしてホームの役割の向上を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	政本グループの理念・運営目標に添うようにサービスを提供している。全社員が共有するために毎週、朝礼を実施している。	法人の理念、運営方針を週1回実施している朝礼時において読み上げ、理念、運営方針の共有に取り組んでいる。また朝礼の内容については議事録に残し、職員間で供覧し理解を深めている。	今後に向けては、ホーム独自の理念や運営目標等についても築き上げ、ホームが目指している事を全職員で共有できるよう取り組まれることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の商店にてなじみの関係を作っている。地域住民とも挨拶をかわし地域交流心がけている。	地域とのつきあいでは、利用者の嗜好品の買い物に近隣の商店を活用したり、外食時に近所のお店を利用する等、地域の資源を有効的に活用し、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症やホームの状況について説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議により発案された事柄や意見等は迅速に対応し、サービスの向上に生かしている。	運営推進会議には地域包括支援センター、町会長、民生委員、利用者代表、家族代表の方が参加し2カ月に一度定期的の実施している。会議では、現状の報告のほか今後の行事予定、参加者からのホームに対する意見を聴取し、サービス向上に活かしていけるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際、施設の現状や取り組みを伝え信頼関係の構築に努めている。	市の担当者との連携に関しては、運営上の疑問点の相談や市内において新規施設立ち上げ時に助言を頂く等協力関係を築いている。また、地域包括支援センターとも日常的に連携を図ることが出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修にて理解を深めている。玄関を含めドアは5つあり、2つのドアは解放している。	利用者の安全面や事故防止の観点から施錠する事もあるが、法人内の研修等において身体拘束廃止に関する理解を深めており、現状身体拘束に繋がる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて理解を深めている。		

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用している方はいるが、制度の深いところまでは理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・ご家族にゆっくりと丁寧な説明を行い、不安を残さないよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	最近の様子などを面会時などにお伝えしている。 意見は直ぐに反映できるように取り組んでいる。	家族からの意見や要望に関しては面会時に直接伺い、利用者からの要望に関しては日常会話から収集し、意見や要望を日々の支援に反映できるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、職員会議を行い意見や提案をもとによりよい事業所となるよう協働している。	ホーム全体での職員会議を毎月実施し、会議内において職員からの意見や提案を収集している。会議以外においても管理者から職員に声をかけ、現況を確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に従い、個々の状況を把握し、職員が働きやすい環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を活かし、職員個々の能力を理解したうえで技術・知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加した時に交流を実施している。		

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心していただくためにしっかりとコミュニケーションを取るようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ちを把握する。なんでも話せるような信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供を基にいま何を必要としているのかを見極め支援を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、草取り、水まき、洗濯物たたみなど出来ることは参加していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には様子をお伝えし、情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらからの働き掛けはできていない。	入居後においても自宅への外泊やお墓参りなど家族の協力を得ながら、これまで大切にしてきた場所や馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の間に職員が入り、利用者が孤立しないように心掛けている。		

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡をいただいたりと関係を切らないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を聞き、ひとりひとりの思いにこたえられるように努めている。	利用者の思いや意向に関しては、日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、利用者の現状や課題を収集し、利用者の意向をケアプランに反映し、意向に沿った支援が図れるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子観察を行い、体調に応じて臨機応変に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員の意見をもとにケアプランを作成している。	アセスメントにおいて利用者の現状や課題を抽出し、担当者会議において職員の意見を収集し、総合的な意見を踏まえケアプランを作成している。ケアプランに掲げた目標については、3ヶ月毎のモニタリングにおいて達成状況を確認している。	定期的にケアプランの見直しは確認できたが、現行のプラン上で期間延長のみとなっているため、ニーズや目標についても定期的に見直し、家族の同意を得る事が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	詳細記録、申し送りを活用し、変更時には職員間で話見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して必要なサービスは何かを職員間で共有し支援している。		

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店にて地域住民とも挨拶をかわし地域交流を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療があり、月に2回往診を受けている。体調不良時にはその都度往診を受けている。	ホーム提携先クリニックによる往診が月2回あり、適切な医療を受けられるように支援している。日常生活の中で利用者に体調変化が生じた際には、主治医に連絡を取り、迅速な対応が図れるように取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の特徴などを情報交換し、往診がスムーズにいこうにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	週に一度は面会にて状況報告を受けている。退院時には訪問診療のドクターと連携をとり対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでは医療サービスの提供は困難であるが、利用者・ご家族の要望を出来る限り叶えられるよう今後は終末期に向けた取り組みも支援して行きたいと思う。	重度化した場合や終末期に向けた方針に関しては、契約の段階においてホームとしてできる事を説明し、重度化をむかえた際には職員、家族、主治医を交え今後の方針を検討していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今現在、全ての職員に訓練はできていないが、緊急時の対応については勉強会を行っている。今後は実践もふまえて実践力を身につけていきたいと思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて地域との連携を図り、全職員が対応できるよう勉強会を行っている。	災害時に備えた取り組みでは、水や乾パン等を備蓄しているほか、ハード面においてはスプリンクラーを設置している。防災機器点検については実施しているが、避難訓練が今年度未実施であるため、早急な実施が望まれる。	今後に向けては、災害時における地域との協力体制の確保や年間2回避難訓練が計画通り実施される事が望まれる。

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語で話しているが、個々との関係で馴れ合いの会話もあることがある。	利用者への声かけに関しては、職員一人ひとりが適切な声かけや対応が図れるよう日々注意を払いながら取り組んでいる。また、ホーム内において「接遇」をテーマに内部研修も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類、買い物等、本人が好きなものを選ばれている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに合わせて支援している。散歩・買い物には随時対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時に衣類を変えたりと支援しているが、ひげが伸びたままの方もいるため徹底したい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付に参加して頂いている。二か月に一回は外食に出かけている。	食事に関する一連の作業では、食事の味付けの確認や後片付けの際の食器ふきなど利用者の状態を考慮し、利用者も関わる事が出来るように支援している。食事形態に関しても刻み食等、状態に応じた対応を図っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々に合った量で提供を行い、水分補給も個々にあったもので対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケアを行い清潔保持に努めている。		

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツからトイレ誘導になった方もいらっしゃいます。	利用者一人ひとりの排泄状況を「排泄排便チェック表」において把握し、利用者の状態に合わせて定時の声かけや誘導によりトイレで排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて確認を毎朝行い、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回入浴を実施している。会話を楽しみながらゆっくりと入浴して頂いている。	入浴に関しては、男性、女性で曜日を分け、1日おきで入浴できるように支援している。入浴中は職員の見守りや介助により、安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて時間帯にとらわれず休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りをおこない、薬の増減時には様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	水やり、食器拭きなどの役割を持っている。遠出の外出で気分転換して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外食や季節の外出などを行っている。近隣にはいつでも出かけられるよう支援している。	天候の良い日には、近隣の公園までの散歩に出かけたり、嗜好品や食材の買い物、お花見への外出、外食等、戸外に出かける事が出来るよう支援している。また、自宅への外泊やお墓参り等に関しては、家族の協力も得ながら外出できるよう取り組んでいる。	

グループホーム千葉寒川の家(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方もいる。買い物にて全員が好きな物を買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば外へ電話を掛けに行かれる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部に季節に合ったものをその都度飾っている。行事ごとの写真を貼ったりしている。	リビングルームの装飾については季節に合わせ装飾を工夫し、季節感が感じる事が出来るよう取り組んでいる。リビングルームのほかトイレや浴室についても日々の清掃により清潔さを保っているほか、転倒の危険となるものは放置せず、安全性にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は自由に移動され、外の空気を吸われたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や仏壇を置いたり心地向く暮らせるようにしている。	居室への持ち込み品に関しては、利用者がこれまで使い慣れた物の持ち込みを可能とするほか、家具類の配置に関しても本人や家族の意向を確認し、居室内において居心地良く過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には物を置かないように対応し、トイレは電気を点灯した状態にて対応している。		